

APPW2025

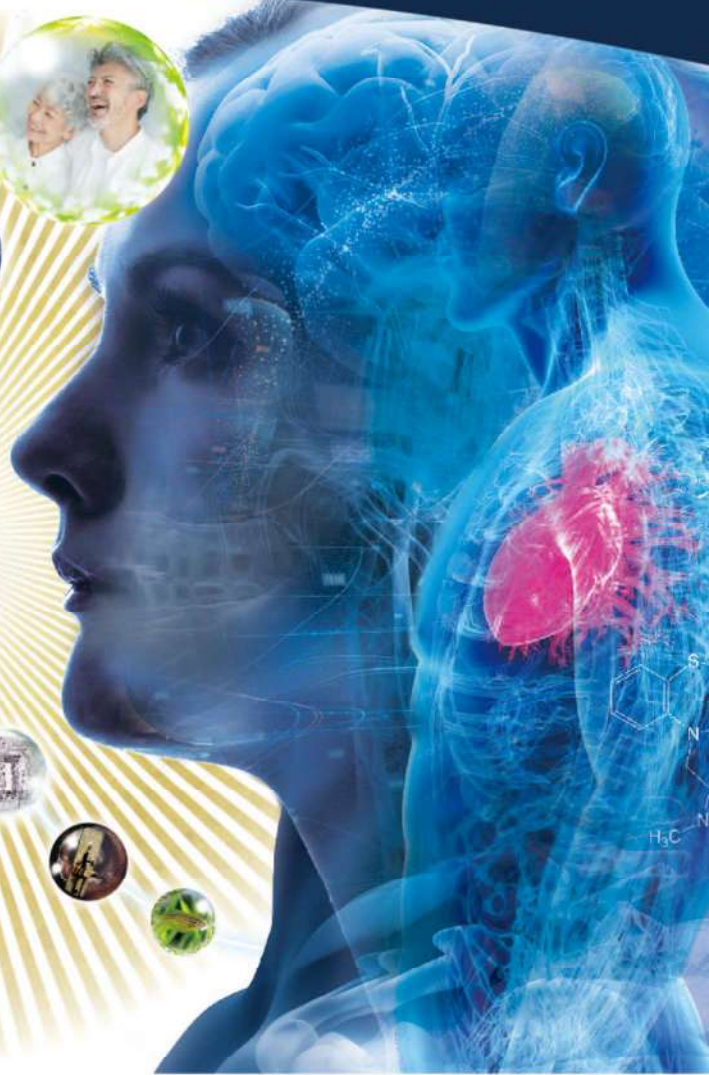
第130回 日本解剖学会 / 第102回 日本生理学会 / 第98回 日本薬理学会 合同大会

The 130th Annual Meeting of the Japanese Association of Anatomists (JAA)・The 102nd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (PSJ)・The 98th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society (JPS)

市民
公開講座

病は気からの サイエンス

「病は気から」という慣用句は古今東西において広く使われてきましたが、近年、その科学的メカニズムが解明されつつあります。人体の恒常性は、脳を含む全身の臓器が連携して働くことで護られており、それらの連携機構の破綻が疾病の発症につながるものが明らかになって来ました。とりわけ、脳と身体をつなぐ神経系や免疫系の役割の理解が大きく進み、これまで原因が不明であった複雑な病態の機序解明と治療方法の開発に繋がりがつつあります。本公開講座では、お二人のエキスパートの先生方をお招きして「心と身体はどのように繋がっているのか?」心と身体の健康を保ち病から護るとはどういうことか?」について最新のサイエンスでどこまで解き明かされているかをわかり易く解説して頂きます。さらに疾病の治療や予防への応用について今後の展望をお話し頂き、生命科学研究や医学研究への興味を誘います。



会期

2025年3月16日(日)
午後2時～4時10分(午後1時30分開場)

会場

幕張メッセ 2F
コンベンションホールB
(JR海浜幕張駅から徒歩5分)



司会

古屋敷 智之



司会

大石 由美子



講演者

眞鍋 一郎



講演者

鈴木 一博

参加費
無料

参加を希望の方のみ事前登録が必要です。
大会HPまたは右記QRコードよりお申し込みください。

募集期間 2025年2月3日(月)～3月12日(水)
※定員になり次第締め切ります。

定員 500名(先着順)



主催：一般社団法人日本解剖学会、一般社団法人日本生理学会、公益社団法人日本薬理学会

APPW2025 運営事務局

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原2-14-14 新大阪グランドビル6F 株式会社エー・イー企画内
TEL:06-6350-7247 E-mail:appw2025@aeplan.co.jp

市民
公開講座

病は気からのサイエンス

プログラム概要

開会の挨拶 14:00~14:05

赤羽 悟美 (第98回日本薬理学会年会 年会長)

講演1 14:05~14:55

真鍋 一郎 先生 (千葉大学大学院医学研究院 教授)

休憩 14:55~15:05

講演2 15:05~15:55

鈴木 一博 先生 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授)

総合討論 15:55~16:05

閉会の挨拶 16:05~16:10

古屋敷 智之 (神戸大学医学研究科薬理学分野 教授)

司会



古屋敷 智之

神戸大学医学研究科
薬理学分野 教授

PROFILE 略歴

1997年京都大学医学部医学科卒業、2001年同医学研究科博士課程修了。ジョンズ・ホプキンス大学への留学、京都大学大学院医学研究科特定准教授などを経て、2014年より現職。ストレスや老化による精神・神経疾患の病態解明と創薬を目指した研究に取り組んでいる。



大石 由美子

東京科学大学
医歯学総合研究科
病態代謝解析学 教授

PROFILE 略歴

1998年群馬大学医学部医学科卒業。2006年東京大学大学院医学系研究科博士課程卒業。2009-2013年カリフォルニア大学サンディエゴ校留学。2013年より現職。生活習慣病の基盤となる慢性炎症や、再生/修復不全による加齢関連疾患の発症メカニズムを明らかにする研究を展開してきた。



真鍋 一郎

千葉大学大学院
医学研究院 教授

ストレスはどうやって 心血管病や多病をもたらすのか

PROFILE 略歴

1990年鳥取大学医学部卒業。1997年ヴァージニア大学留学。2001年以降東京大学循環器内科、医療ナノテクノロジー人材養成ユニット、グローバルCOE等。2016年より現職。心不全から多病をもたらす機序や慢性炎症に着目してメカニズム研究と臨床への応用を進めている。



鈴木 一博

大阪大学免疫学フロンティア
研究センター 教授

病は気からのメカニズム 交感神経によるリンパ球循環のコントロール

PROFILE 略歴

1998年、東京大学理学部化学科卒業。2003年、大阪大学医学部医学科(学士編入)卒業。2007年、大阪大学大学院医学系研究科修了。カリフォルニア大学サンフランシスコ校に留学の後、大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任准教授、科学技術振興機構さきがけ研究者(兼任)を経て2017年より現職。リンパ球の体内動態に注目して、神経と免疫の相互作用の解明、免疫疾患の治療法の開発を進めている。